

10日目 7月24日

会 場： 松江市営野球場

第2試合		～準々決勝～																
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
益田翔陽	0	2	0	0	0	0	2	0	0							4	10	1
三刀屋	0	0	2	0	0	4	1	0	X							7	15	1
(投手-捕手)																		
・ (益)	吉村→水津 - 石橋																	
・ (三)	吉田→飯塚→河角 - 楨野																	
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)					
・ (益)	水津、西田昂																	
・ (三)	建部2、渡部						渡部、鈴木											
(審判) [球審]	安達健			[一塁] 下谷			[二塁] 日野岡			[三塁] 吉岡								
(チーム成績)																		
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨
(益)	41	10	4	2	0	0	4	4	1	0	10	1		1	1	0	1	0
(三)	43	15	6	3	2	0	4	6	4	2	12	0		1	0	0	0	0

「三刀屋、長打と小技噛み合い準決勝進出決める！」

大会10日目の第2試合は、準々決勝最後の試合は益田翔陽と三刀屋の対決となった。益田翔陽は秋準優勝の出雲西、三刀屋は第3シードの大東と強豪校を倒した勢いに乗る両校の好ゲームが予想された。益田翔陽は3試合殆ど1人で投げ抜いたエースの吉村、三刀屋は吉田が先発した。

1回裏、三刀屋は2番渡部の3塁打で好機を作るが後続が続かず無得点に終わる。直後の2回表、益田翔陽は4番水津の2塁打で好機を得ると、5番西田昂が右中間への適時2塁打放つ。更に1死3塁から7番城市にも適時打が飛び出し、この回2点を先制する。対する三刀屋も3回裏、連打と暴投で1死2・3塁とし、4番高野のレフトへの適時打で2点を返し、すぐさま同点に追いつく。試合はこのまま5回まで進んだ。

試合が大きく動いたのは6回裏、三刀屋は1死1塁から9番建部がレフトへの適時2塁打を放つと、2番渡部の適時2塁打、相手守備の乱れる間の得点で一挙4点を追加し試合を決めた。益田翔陽も三刀屋2番手の飯塚を攻め、2番秋田の適時打と3番吉村の犠飛で2点を返したが反撃もここまでだった。直後の7回裏に1死3塁から代打藤原がスクイズを決め、三刀屋が益田翔陽2番手の水津から1点奪い、最後は三刀屋エースの河角が試合を締め三刀屋が2020年の独自大会以来の夏の準決勝進出を決めた。

